

State of the Art

肺高血圧症とPRO

肺高血圧症患者のPRO—循環器編—

坂崎 尚徳 兵庫県立尼崎総合医療センター小児循環器内科部長

Key word

👉 特発性肺動脈性肺高血圧症 (IPAH), Eisenmenger 症候群, 慢性血栓塞栓性肺高血圧症 (CTEPH), 先天性心疾患, QOL

S u m m a r y

肺動脈性肺高血圧症 (PAH) 患者の生命予後の著明な改善により, 治療の目標が生存率の改善から QOL の向上にシフトしてきており, 疾患特異的な patient reported outcome (PRO) 指標の重要性が増しつつある。Cambridge Pulmonary Hypertension Outcome Review (CAMPHOR) は, 特発性 PAH (IPAH) や慢性血栓塞栓性肺高血圧症 (CTEPH), Eisenmenger 症候群などの先天性心疾患に伴う肺高血圧症 (CHD-PAH) を対象とした臨床研究で多く使用され, 身体面, 精神面の症状, 活動能力, QOL の程度を詳細に定量的に評価することができ, 6 分間歩行距離や NYHA 機能分類と同様に予後予測因子としても有用とされる。また, 薬剤やリハビリの効果判定にも使用できるが, 質問項目が 65 項目と多く臨床現場では使用しにくい。一方, emPHasis-10 は, 質問項目が 10 項目とコンパクトにまとまっており, 最近日本語版も使用できるようになり, 外来診療にも有用である。今後, PRO 指標を用いて, IPAH や CHD-PAH 患者の負担や QOL への影響を real time に評価していくことが治療管理のうえで重要である。